

# 記念講演





## 記念講演

ベンチャーカン 安政 高安 正勝

みなさんこんにちは。ただいま校長先生に紹介していただきました高安です。私は40年前の66年に、いろんな夢や希望を抱いて、前原高校を卒業しました。物理学者か発明家になろうと思っていたので、「国費自費試験」を目指していました。しかし、国費自費の一次試験には受かったんですが、二次で落ちたもんですから、親にも悪いし、国費自費を諦めて琉大に進学しました。物理学科をもちろん選び、専攻しました。

私、まだタバコを一回も吸ったことありません。それから酒は、高校を卒業して一週間目に隣の、キビ出しを手伝って、その家で夕飯のときに二三杯飲んだだけです。それはなぜかと今考えますと、今の50代は貧乏な家庭で育っていますので、貧しい中で、浪人までさせてもらっているのに、浪人中に酒を飲んで酔うということは、親に悪いと、それが一番にありました。親は苦労して朝から晩まで働いているのに、子供が浪人をしながら親からもらった金で酒とかタバコとか、ちょっと自分としてはこんな親不孝はないと思っていたんですね。そして、大学にはいってからも飲まないで過ごしたんです。今、もう58歳なんんですけど、まだ酒もタバコもやったことありません。これは、一つの生き方なんです。酒を飲まない人は、サークルに、自分たちの仲間に入れないと、そんな風にいわれるぐらいの時代でしたけど、そんならそれでいいと。自分は自分の信念で生きると。そういう風にずっと自分の主張を貫き通してきました。みなさんにも、それぞれが個性を持って、自分の特徴を磨くような生き方をして欲しいと思います。

物理学者になりたいという夢を持っていた私は、琉大で4年間勉強した後、大学院を受けようとした。しかし、英語が不得意なため、大学院を諦めて南西航空（現JTA）に入社して、実社会に出たわけです。その間もいろんな発明をしておりまして、12年目に洋蘭の栽培をする特許を取りまして、それを試すために南西航空をやめて具志川に高安洋蘭というのを作つて農業をやっていました。南西航空というのは、ものすごく給料が高いです。そのような会社を辞めて、農業をやるというのはバカじゃないかといろいろ言われました。でも自分が発明した世界で初めて誰も考えたことのないことをやることの楽しさに比べたら、給料なんてたいしたことないと僕はそう思ったんですね。で、ワイフに相談しました。そしたら、「あなたの人生だから、好きにしなさい。」と簡単にOKもらいました。親にも相談しないで南西航空を辞めて、農業始めたら、親も僕から聞く前に近所から聞いて「あなたの長男は、南西航空を辞めたのか？」とか言われてですね、ショックだったらしいんですけど。私は南西航空で12年、飛行機の運行管理とか性能などの仕事をしていたんですが、その中でバブルが最盛期だったので、洋蘭のデンファレという花が切花にしても一本1000円するぐらいの時期がありました。それで、具志川から空港まで毎日通つて仕事するのは、往復の時間を考えたら安い給料だと思ったのですね。それで、南西航空をやめて花を作っていました。花を作つている間も、常にいろんな工夫というか物を発明するということだけはずつとやっていました。その中で、今でも皆さん暑いと思いますでしょ。その暑さを扇風機なしで冷やす方法を考えたんです。それが、水を細かくして吹き付けて、気化熱で温室

を冷やすという方法だったんですけど、これが平成8年の産業祭りで県知事賞をもらいました。

その翌年の平成9年、今まで専売制であった日本の塩が自由化されると1月4日の新聞にあったんです。それを見たとたん、「常温空中瞬間結晶製塩法」を1秒で思いつきました。これは、小学校4年の時から数えて40年なので、「40年プラス1秒」と私は言っていますけど、40年間の基礎があつてはじめてできることです。実際には、1秒でできたぐらい当たり前の話なんですね。絶対の自信があつたので、実験もせずに2月16日には特許を申請しました。特許の申請には、50万円かかります。私は物理学科ですから、137億年前のビッグバンから始まって、46億年前の地球誕生、40億年前の生命誕生、そして進化と、そういうことを大学時代から、卒業後もそれだけは勉強していたので、この塩が生命にとって一番大事なものであるという事が分かったんです。それで、「ぬちマース」という名称をつけて売り出しました。要するに、私は物理学科でいろんなことを勉強しましたけど、全てが役に立ったということです。生命というのは普通物理じゃないですね。ところが、私は生命こそは物理の最終目標だというふうに思って、ずっと生命の誕生から進化のことを考えていました。私が「常温空中瞬間結晶製塩法」を作ったとき、塩の自由化という情報を目にしたのは、日本の人口の半分と考えても6500万人をくだらないと思います。だけどその情報を聞いて、塩を作ったのは僕だけです。なぜ自由化という情報をただけで塩ができたかというと、40年間それなりの工夫をするということ、自然を理解するということ、本質を見るということを心がけて生きてきたからです。もちろん、そう心がけても40年間何もできないし、もしかしたら死ぬまで何もできなかつかもしません。たまたま私は幸運なことに、塩の自由化の情報をただけで、私にとって秦の始皇帝が探し求めていた不老長寿の薬である塩ができました。それは40年間一つの目標に向かって進んできた結果なんです。

簡単に塩の話をしますと、生命は誕生して40億年になります。陸に上がってまだ4億年です。ということは、36億年間海の中にいたんです。海の中にあつたのは、「ぬちマース」と水だけです。「ぬちマース」を利用して生命は、36億年かけて進化してきたんです。ということは、人間が健康であるためには、一番大事なものは「ぬちマース」なんです。今までの塩は、海の中にあるミネラルを含めた「ぬちマース」の中からNaClという塩化ナトリウムだけを取り出していたのが塩です。それを全部一緒にとるようにしたのが「ぬちマース」なんです。埼玉医科大学では、ネズミを使って、「ぬちマース」をたべると頭が良くなるという実験結果を得ています。ネズミの2グループの一方には「ぬちマース」を与え、もう一方は普通の塩を与えます。ミネラルを与えるか与えないかですね。ナトリウムというのは、食欲の増進のために必要なので、ナトリウムだけは与えるんですね、一方は。ライトがついているときにだけスイッチを押すと餌が出るようになっています。このネズミたちは餌を与えないでひもじい思いをさせています。最初はスイッチとライトの関係はわかりませんから、ランダムに5割の確率でスイッチを押しているだけです。「ぬちマース」を食べていないほうは、2週間経っても3週間経っても、最初と同じ5割の確率です。ライトがついているときにスイッチを押すと餌が落ちるというしくみをいつまでも認識できません。「ぬちマース」を食べているほうは、1週間目5分5分だったのが2週間目4分6分、3週間目3分7分と、どんどんライトがついているときにスイッチを押すようになります。埼玉医科大学の先生は私との共著で、実験結果を出しています。

私は「ぬちマース」こそ世界中に売れるという自信がありました。ただ、5年後に売れるのか、10年後なのか、20年後なのかは分からんんですね。でも、二ヵ月目にはベンチャー高安を造ったんです。最初はワイフから金を借り、これを研究資金にするわけです。研究というのは、すぐ金を使ってなくなります。そのあと、今度は、親・兄弟から借ります。それでも、足りないんです。今度は、親父の

土地を担保にして金を借りるんです。銀行も担保がある間は貸すんですが、後は貸さなくなります。するとどうなるかというと、友達が助けてくれるわけです。それもすぐになくなります。今度は、どうしたと思います？前原高校の三年間同じクラスだった同級生45名が、また助けてくれるんです。こんな風にして研究して、ようやく今8年目ですけど、だんだん軌道に乗ってきて今度、宮城島に6億かけて工場を作ります。最初1500坪ぐらい借りて作るつもりが、周囲の人がベンチャー高安のあなただったら、いくらでも使ってくれということで、今はもう2万坪ぐらい確保できました。今まで銀行に行くと、担保なしでは貸せないと言われたのですが、今は、担保なしで6億円貸すと言います。また、今度宮城島に工場を作るとなると6億円かかるものですから、今までの赤字がどんどん積み重なっているわけです。すると、銀行の信用もちょっと落ちるだろうと、今度は5年前に紹介されて、今までに5、6回しかあったことのない人が5000万円出してくれたんです。儲かったら返しなさいと、それぐらい私を信用してくれているんです。今日か明日にはその手続きが済んで、1億円のベンチャー高安の株になります。それも常に皆さんが出資を引き立ててくれて、いたからです。私もただ助けてもらうだけでは情けないんで、今はただ助けてもらうだけですけど、この塩は絶対人類を救う塩だと思っているんです。そういうことを理解していただいて、こういう風にベンチャー高安は、だんだん本物の会社になります。私は、8年間いかにまじめに、人を騙すことなく眞面目に我慢してやってきたか、一番それが信用を得る大事なことだと思っています。みなさんも、その場限りのことだけを考えるのではなくて、相手に対して裏切りをしないという気持ちだけを持って、商売をするんだったらやって欲しい。

皆さんも、先生や、親や、社会に自分の実力を認めてもらおうと思っても、認めてもらえない事がたくさんあると思います。私も、工場を作る当初は、金がいくらかかるか見当もつかなかつたので、国とか県にこういう製塩法を考えて特許を申請しているので、支援して欲しいとお願いしたのですが、誰も認めてくれませんでした。しかし、自分の可能性は、自分しか知りません。自分の意志の中に自分の可能性はあります。他が決めることではないです。途中で外部の声に惑わされて方向を変えていたら、それは、無理だったと思っています。ですから、みなさんは皆さんの進む道を自分で決めて、その進む道の可能性をより高くするために勉強して、自信を持って進む事がこれから生きている間、有意義に進む一番大事な方法だと思っています。

私は大学院を諦めたのも英語が不得意だからという話をしましたが、今三ヵ月前から英語の勉強に取り組んでいます。三ヵ月前からやっていることは、英単語を1時間に30個覚えること。そういうことに挑戦して、三ヵ月間は基礎訓練のようなことをやって、今月から高校生の皆さんができるよう、Aからもちろん重要単語だけですが覚えることをやっています。それが、2分で一つ覚えます。そういう不得意だったから自分の不得意を少しでも減らそうということで、人並みになろうと努力して、ベンチャー高安も去年はパリに行って、今年はドイツに行って、来年、再来年にはアメリカにも行きたいと思っています。その時に英会話を、通訳なしでできるようになりたいと思っています。私の一番の不得意は英語なんですよ。高校生の前でそんなことを言って威張っているんじゃなくて、皆さんと競争したいんですよ。58歳のおじさんでも、英単語を2分見れば覚えると、こんな古い頭でそんな事ができると。もし、自信がある人は挑戦に来てください。いくらでも受けます。それぐらい、常に生きがいを持って生きていってほしい。そのための目的を持った対応を今からして欲しい。前原高校の同窓生として、みなさんは是非この前原高校で学んだことを基礎に自分の進路、自分にあったものを見つけて、常に努力してほしい。

私が最近ふと思ったことは、ウサギと亀の話がありますね。あれは小学生のときには聞かされるんで、

全くの御伽噺かと思っていましたけど、実際には人生というのは長い、100年なんですね。長い人生をいかに努力していくかが亀なんです。自分に過信してあれもこれもやって、本質を見失ったのがウサギだと思います。皆さん、自分の人生の本質をちゃんと捕まえて、それに向かって今後ともがんばって欲しい。各々が一生涯やつていける何かを見つけて欲しい。

私は高校時代、歌も歌えない、絵も描けない、書道もできない、英語もできない、できるのは数学と物理だけでした。一日は24時間と人の時間は限られているなかで、能力が分散しなかつたことも大事なことだったと思っています。私の場合は、あれこれ迷うことなく物理と数学だけを、生命に関する発明に関することだけ一本に絞れた事が良かった。そして、継続できた事が良かったと思っています。継続することは、なんでもいいんです。隣の誰よりも良くなるためには、継続する事が一番です。どんな偉い人でも、継続には負けます。偉い人であればあるほど、いろんな能力があるので分散します。みなさんは、自分の一番好きなこと、継続できることは何かを見つける事が一番大事です。今、高校生のうちに自分の方向性をちゃんと見つけて、それに時間をかけて能力を磨くことです。焦ることはないんです。私だって本当はこの発明を22歳ぐらいのときにやりたかったです。でも、今からは皆さん、いくつで死ぬと思います？私は今、58歳なんですけど、あと50年しか生きないと思っています。皆さんはこれからあと100年生きるんです。長生きして、頭も良くして人生設計をちゃんと考えて欲しい。

今、ぬちマースは世界を目標に新しい工場を作ります。私は、ぬちマースを使って人類を健康にするという話をいろんなところでするんですが、誰も簡単には納得してくれないんですよ。それで、本を出すしかないと思って本を執筆していましたら、幻冬舎の編集局長が僕の工場に来て話を聞いているうちに、その幻冬舎の編集局長から本を出してくれと頼まれました。幻冬舎というところは、今まで沖縄から何人もの人が本を出したいと依頼したけれども誰も採用されなかったところなんです。皆さんの先輩は、本を出してくれと頼まれるくらい知識というか理屈を理論を持っていたんですよ。その時は、9万字ぐらい書いてありました。一ヶ月ぐらいであと3万字追加して12万字をその編集局長にあげたんです。そして「現代人を救う塩・健康革命」という本ができました。これも三ヵ月ですぐ出ました。それが、韓国でも翻訳されて出ています。近々、もしかしたら中国でも出るかも知れません。

しかし、前原高校の先輩である私が、特に自分で特別な学校に行ったわけではない、大学まで普通じゃないですか。それでいて、その人の意志、その目的を持った生き方だけで世界にもしかしたら、世界中の人に幸福にできるものを発明できたということは、皆さんもその可能性が十分あるということです。皆さんが目的を持って生きているかどうかということだけです。皆さん、何かになってこれだけは世界一になりたい最初は具志川一、うるま市一でいいですよ。それが沖縄一、日本一になりたい、世界一になりたいと。ギネスに載ったのも、本質的に言うと、今までの塩というものの考え方を変えたらからなんです。今までの塩は海の中からNaClだけを取るのが当たり前前の製塩法だったんですが、私の製塩法は海のもの全部取ったんでギネスに載るのも当たり前なんです。当たり前だから出したんですね、ギネスにも。皆さんには、これから、皆さんを取り巻いている常識を破る考え方をして、自分の夢に向かって常に進んでいってもらいたいと思います。参考になったかどうか分かりませんけど、こんなところで時間だと思います。終わらせていただきます。どうもありがとうございました。